

＜学区の概要＞

本校は隣接する福室小学校の児童数増加に伴い、昭和51年度に福室小学校より分離し、仙台市立小学校59番目の学校として開校しました。

本学区は、西は福室小学校区、北は多賀城市の山王小学校区、東は同市の八幡小学校区と隣接しています。仙台市の東端にあり、多賀城市や利府町も住民の生活圏となっています。学校周辺は住宅地となっていて、北東には仙台育英学園高校、道路を挟んで南側には比較的広い栄公園があります。道路の両側にはシラカシが街路樹として植えられ、閑静なたたずまいを見せています。また、学校から徒歩5分ほどのところに、昭和56年に地域住民の請願により誕生した東北初の橋上駅の仙石線中野栄駅があります。仙石線のすぐ南側をほぼ平行して東西に国道45号線が走り、南東に仙台東部道路と通称産業道路が通り、仙台港北ICがあります。このIC及び中野栄駅から仙台新港に延びる地区は開発が盛んに進められ、平成20年に東北最大級のアウトレットモールがオープンし、その後ぞくぞくと大型店が進出し大型ショッピングエリアとなっています。近隣のビール工場や東北歴史博物館は、校外学習に活用されています。平成27年には、仙台港背後地高砂中央公園に仙台うみの杜水族館がオープンし、仙台市地下鉄東西線もその12月に開通など東日本大震災の復興のシンボルとなる事業が行われている。

＜東日本大震災発生時の様子＞

平成23年3月11日には、マグニチュード9.0の東日本大震災が発生しました。仙台港から直線距離で2kmほどに立地している本校は、学校の近くまで津波が押し寄せ、学区の2/3が浸水しました。南東側に大型商業施設があることもあり、当初は約3000名が校舎や体育館に避難しました。近くの石油コンビナートが火災を起こして噴煙をあげており、不安な日々を送りました。また、校舎が被災した中野小学校が併設となり、同一の校舎で共に自校の学校再開・教育活動の推進を目指してきましたが、平成28年3月に中野小学校は閉校にはなったものの、復興への思いをともにニコニコの城（二校二校）でともにがんばってきたことを受け継いでいる。平成28年度は防災教育推進校となった。

＜学区の歴史＞

学区の西側にある誓渡寺は、応永20年頃(1413)松島瑞巖寺の32世によって浜在家(現在の出家)に開創されましたが、後に荒廃したので瑞巖寺105世天嶺性空和尚が京保10年(1725)現在地に再興開山しました。また、神明地区には高見堂観音があり、天明2年の大飢饉の餓死者の供養塔があります。さらに、仙台港周辺の再開発に伴い、平成6年度から21年度にかけ発掘調査(約6.8ha)が行われ、縄文時代後期中頃から江戸時代にまで及ぶ遺跡(沼向遺跡)が発見されました。

＜地域住民＞

地域の皆さんは、「地域づくり」への思いが強く、今年で16回目を迎える学校との共催の運動会や中野栄フリーマーケット、中野栄夏まつり、コミセン祭り、児童館祭り、防災訓練などの各種の催しへの地域住民の参加率も高くなってきています。また、地域住民有志からなるみまもり散歩隊による登下校時の交通指導も行われています。そのような思いが学校を支える力となっています。

PTA活動も地に足をつけた活動が展開されております。PTAが開校10周年記念事業として設置した築山(わんぱく砦)は、子どもたちの人気の遊具スポットで本校のシンボルの一つとなっています。また、開校20周年時に遊具が付設され、開校30周年時にはネット補修が行われました。以後毎年、PTAの事業として築山の補修が行われ、平成22年の全面改修を経て今に至っています。さらに、子どもたちを不審者から守るために、PTAが金曜日の放課後には広報車を出して学区内の防犯パトロールを行っています。

(※H29.3加筆)